

## 令和2年度 看護学部 学部長と学生との懇談会 議事概要

- テーマ：①「専門教育における対面授業とメディア授業のベストミックスについて」  
②「令和2年度におけるメディア授業のグッドプラクティスについて」

実施日時：令和2年11月11日（水）14：30～15：30

場所：第一講義室（看護学部管理棟2階）

参加学生：学部生5名（2年次生3名、4年次生2名）

参加教職員：中村看護学部長、諏訪評議員、北池学部教務委員長（司会）、宮崎学生生活支援委員長、石橋学部教務副委員長、斉藤学部教務副委員長

事務（亥鼻地区事務部学務課：課長、副課長、看護学部学務係長、学務係員  
学務部教育企画課：課長、係員）

ご臨席：徳久学長

### <懇談会の概要>

中村看護学部長から挨拶があり、今年度のテーマ①「専門教育における対面授業とメディア授業のベストミックスについて」②「令和2年度におけるメディア授業のグッドプラクティスについて」について、各学年で事前にアンケート等によりまとめた意見について発表を依頼した。

なお、各学年からの意見と懇談内容は以下のとおり。

### テーマ：①「専門教育における対面授業とメディア授業のベストミックスについて」

○2年生から

<時間割上の工夫について>

- ・対面の授業とオンラインの授業（特に双方型）の授業を1日で混合させないでほしい。対面授業の日とメディア授業の日を分けてほしい。通学の日はまとめてほしい。
- ・対面授業を行うなら、連続した時間で行ってほしい。1、2時間空けないでほしい。
- ・同じ授業は、メディア授業かオンデマンドのどちらか、または全部オンラインか全部メディアのどちらかに統一してほしい。同じ授業で対面・双方・オンデマンドと3種類混合だとスケジュールがとても分かりづらい。
- ・対面授業は午前中か3限でやってほしい。
- ・zoom、オンデマンド、対面ごとに同じ曜日でできるだけ固めてほしい。
- ・対面授業が行われる日にメディア双方型があるときには1コマあけてほしい。または、対面授業のある日は他の授業をオンデマンド型にしてほしい。
- ・1、2限登校、5限にメディア双方型だと家が遠い人に負担がかかるので上手く連携をとってほしい。

<メディア授業向きの科目の特徴を挙げてください。>

- ・座学の授業
- ・パワーポイント形式のものでその場での意見交換が必要でないもの

- ・実技演習などがない教科
- ・暗記中心のもの（薬理など）
- ・筆記テストがあるもの（見直せるから）
- ・大人数の授業、一年次に希望が多く抽選漏れした授業

〈絶対に対面授業で実施しなければいけない科目とは、どのようなものでしょうか。〉

- ・実習、実験、看護技術
- ・グループワークがあるもの、IPE
- ・英語の授業

〈実験・演習・ゼミ形式の授業においても、メディア授業形式で代替可能な部分はあると思いますか。あると思う場合は、具体的に挙げてください。〉

- ・形態機能学実習の説明部分、発表会
- ・先生が実験している、観察した内容を動画であげる（実験を映像でみる）
- ・話し合いがメインのゼミ形式のもの（ゼミは対面で行いたいとの希望もある）
- ・実習や実験の説明部分はメディアでも良い、知識提供だけなもの
- ・会議など、実践が不要なもの

〈1つの授業について、学生側で、教室での受講、同時双方向型での受講、オンデマンド型の受講を選択できる方式にすることをどう思いますか。〉

賛成

- ・いいと思うが、提出物は電子にそろえるべき
- ・いいと思うが、先生の負担が増える
- ・成績に差が出ないなら良い
- ・いいと思うが、偏りは出ると思う。

反対

- ・スケジュール管理が大変
- ・オンライン支障があったのでみんな同じ条件にしてほしい、公平さを求める。
- ・周りに合わせる生徒も多いからあまり意味をなさないと思う。
- ・先生側で決めてよい。

〈対面授業と同時双方向型のメディア授業の時間割上の相性の悪さ（時間割上連続していると受講しづらいという問題など）を克服する環境や工夫など、提案があれば挙げてください。〉

- ・学校でメディア授業が受けられるような、WIFI環境がよい部屋を作ってほしい。
- ・対面とメディアの授業を同じ日に入れず、分ける。
- ・時間割の組み換え
- ・お昼を挟んでも、対面のあとの授業（3限含む）はオンデマンドにしてほしい。
- ・双方型授業が5限続くのは避けたい。

- ・ 同じ授業なら形式を統一してほしい。(zoom, Teams, Moodle など日によって変えるのはやめてほしい)
- ・ 学校の WIFI をもっと強いものにする。

〈その他、上の設問以外でメディア授業について思っていることを教えてください。〉

- ・ メディア双方はシステムトラブルが多い。意見交換もなく、全員ミュート・ビデオオフで行う双方型は意味がないと思う。
- ・ メディア授業の方が集中できるからメディア授業を多めにしてほしい。
- ・ オンデマンド型は、1限前から始められるようにしてほしい。
- ・ メディア授業の課題の期限にあまり猶予がないと、moodleが混雑するため前期のように1週間ほど猶予を頂きたいです。
- ・ オンデマンド型の授業の視聴期限が科目ごとに異なると、把握が難しい。最初にオンデマンドも含めての全時間割を提示してほしい。
- ・ メディア授業を経験したら、従来の対面授業に戻れる気がしません。とても効果的だからです。特に、オンデマンドの授業では自分の意欲が高い時に（やろうと思った時に）視聴するのでその分吸収することができます。朝遠い中1限に間に合うように行って眠たくなる、ということがありません。
- ・ オンデマンドだと繰り返し聞くことや倍速で聞くことができるためとても効率が良いです。しかしながら、やはり先生との距離が遠く、放置されている、と考える人もいます。そのために相談や質問がいままで以上にしやすい環境にする、いつでもサポートがある状態であることが分かりやすくなるような状況にすることでより効率よくオンデマンドを受けられると思います。同時双方向は個人的には反対です。自分の通信環境が悪いせいかもしれませんが音声途切れ途切れになったりするからです。最終的に録画をするのであればオンデマンドでいいのではないからと勝手に思ってしまう。地域看護学のセミナーは、同時双方向で小チームに1人先生がつく形でとても良かったです。双方向は双方向でも、あのように入人数ごとに行えばとてもよい学習環境だなと感じます。
- ・ 課題を出すならすべて締め切りの通知をムードルで出して欲しい。
- ・ 同時双方向にして、あとから動画載っけるなら、いっそのことオンデマンドでいいと思う。結局通信環境が悪いので止まるならオンデマンドの方がいい。
- ・ 来年度以降も、実習以外はなるべくメディア授業にしてほしい。同時双方向で生徒が何も話さないなら、オンデマンドでいいと思う。出席を視聴率のみで取るのはやめて欲しい。(先生のパソコンで正常に表示されない場合があるため)視聴率で出席を取るなら、視聴率が低いビデオがある人には先生から連絡してほしい。
- ・ メディア授業を中心に前期の講義を受けてみて、オンデマンド型講義は生徒のペースで受講できるため、講義中紹介された文献等について、調べながら受講することができ、リアルタイムの講義より理解が深まる利点もあると思いました。
- ・ オンデマンド型は時間をずらして受けられるメリットがあるが、同時双方向型は結局時間に縛られるので戻せるなら対面に戻って欲しい。また、それぞれの授業で使うデバイスがmoodle、

teams、zoomでバラバラだとわかりにくいので一元化して欲しい。

- メディア授業だと、わからなかった部分を何回も聞けるのでそれが良いと思います。また、1回の説明でわからなかった内容も、もう一度復習できるのも良い点です。双方向型のメディア授業は対面授業のような緊張感もありいい面もたくさんあるのですが、接続不良によって、思うように授業を受けることができなかつたときには授業に集中することができず、接続の方に気が散ってしまったので、何回以上は双方向型を受けるというようにして、学生それぞれの接続状況に応じて自由に選択できたらいいと思いました。ただムードル上に資料が挙げられているだけだと理解するのがかなり大変だった。(特に薬理学は難しかった)
- 家にプリンターがなく、学校の図書館にいてプリントアウトをしているので、映像をアップするのは当日でも良いが、早めに授業資料を載せてもらえないと授業資料の印刷が間に合わずに困っている。
- 双方向授業だと通信状態が悪い時に困る。授業資料のみで動画もなく小テストもないと、大事な部分がわかりにくく、自分で不足部分を見つけにくいし、テスト対策をとりにくい。
- 同時双方向とする授業は、意見交換などをするものにして欲しい。同時でやっているという教員の自己満足に感じる。
- 自分の都合のつく時間に集中してみれるので、学習能力は上がっていると思う。
- ※※考慮して頂きたいこと※※
- メディア授業の場合、授業に関する必要な配布資料を個人でプリントアウトする必要が多々発生します。現在、各自550枚の印刷枚数が可能となっていますが、追加する場合、図書館専用証紙(500円)1枚につき140枚の追加が可能とのことですが、メディア授業を今後とも増やす、常態化するのであれば、そもそも年度に割り当てられている印刷枚数を増やすか、追加する場合の費用をもう少し安価にするなどの対応をお願いしたいです。
- 提出先をTeams, moodle, メールと統一がないため、出し損ずる可能性があるためリマインドしてほしい。
- この授業はteams、この授業はzoom、今日はオンデマンド、来週は双方向、というようにバラバラだとスケジュールの把握が大変なので、できるだけ統一してほしい。
- 今回のアンケートで学生がまだ受講していない講義や実習、ゼミについて、目的や内容がわからないものに関して、メディア授業と対面授業の割合を答える事は難しいです。
- メディア授業によって、講義を一時停止して調べながら受講するなど、自分のペースで受講できるので、学びの質は向上していると感じます。看護学部としてメディア提供ポリシーを設けて、それに基づいて講義を展開してほしいです。動画は復習のために一定期間閲覧可能にする、レスポンスシートの提出期限のルールやメディア授業のツールの統一(Teamsに統一するなど)などです。

#### ○4年生から

(時間割上の工夫について)

- 4年次は自分の興味・関心のある自由科目を履修する。

- ・通学にかかる時間がある人もいるため、日によってメディア授業の日、対面の日などで分ける。
- ・4年生後期の自由科目は曜日・時間帯が被っておらず、選択肢が広がった。
- ・オンラインでのテキスト掲載時間を授業日の日付が変わった瞬間から見れるようにして欲しい。  
時間割通りの時間から開始という形にしなくてもいいと思う。

〈メディア授業向きの科目の特徴を挙げてください。〉

- ・履修者数が多い
- ・一般教養科目
- ・講義型の授業
- ・グループワークで成果物を作っていくことが中心の授業では、teamsの活用にファイルの共有や同時共有や操作もしやすく、話し合いが進めやすかったです。
- ・病態や解剖など知識定着が目的の授業は動画配信型が適している。
- ・〇〇概論 ・履修者数の多いもの
- ・低学年にも同じことが言えるかわからないが、コア実習のグループカンファレンスはteamsの会議でも意外と充実するなと思った。
- ・演習要素のない知識系の科目
- ・実習や演習以外の科目
- ・暗記系科目

〈絶対に対面授業で実施しなければいけない科目とは、どのようなものでしょうか。〉

- ・臨地実習
- ・患者さんと関わる実習は対面で行う意義が大きいと思います。
- ・実習、実験
- ・〇〇実習 ・実技の習得
- ・技術を習得する授業
- ・実習 やはり対人援助はメディアだけだと限界があるのかなと思います。

〈実験・演習・ゼミ形式の授業においても、メディア授業形式で代替可能な部分はあると思いますか。あると思う場合は、具体的に挙げてください。〉

- ・自己学習
- ・講義形式のものは動画に代替可能だと思いましたが、動画なしでスライドだけ見るようなテキスト型だと理解を深めにくいという実感があります。
- ・ゼミなど、意見を交換する場はオンラインでいいと思う。
- ・卒研のゼミはteamsの会議でもできると思う。
- ・レジュメ等で知識を得る部分
- ・看護計画を立てる練習

〈1つの授業について、学生側で、教室での受講、同時双方向型での受講、オンデマンド型の受講

を選択できる方式にすることをどう思いますか。)

- ・良いと思います
- ・できることなら教室での受講を学生みんなでするのが楽しいと思う。
- ・自分自身で選択できるのは良いことだと思います。ただ、受講の方法による学びにはどうしても差が出ると思うので、それを自分自身で判断して選択する力が求められると思いました。
- ・実家生や一人暮らし、大学から近くに住んでいるか遠いか、Wi-Fi環境が整っているか否かなど人によって様々な状況にあるので、学生にとってはメリットがあると思いました。ただ、先生方の準備が大変になりそうと率直に感じました。
- ・取れる授業が増えていいと思う。同じ時間帯に興味がある授業が2つ以上取れるのはメリットである。
- ・一学年全員が一斉に同じ講義を聞くスタイルの授業は、教室受講と同時双方向型の両方を行い、学生が参加方法を選択できると良いと思う。コア実習以降はグループごとに動くことになるので、学生一人一人が参加方法を選択できるようにするのは難しいと思う。
- ・先生方の負担が大きく現実的ではないと思う。
- ・交通費を懸念してしまい大学まで行くのをやめてしまいそう。学生間で受ける授業の質が変わってくるからやめた方がいい。
- ・いいと思うが、必要性は感じない。
- ・ありだと思う。
- ・選択できる状況下なら教室で受講する形を既にとっていると思うので、あまり必要性を感じないです。
- ・全員同じ方法がいいと思う。

(対面授業と同時双方向型のメディア授業の時間割上の相性の悪さ(時間割上連続していると受講しづらいという問題など)を克服する環境や工夫など、提案があれば挙げてください。)

- ・他学部の学生で、Wi-Fiがあるカフェや図書館でメディア授業を受講するなどの工夫している人はいました。
- ・家のWi-Fiの容量が限られているため図書館の同時双方向型授業用の部屋を活用していますが、部屋の数に限られているため確実にいつでも使える保証はないです。欲を言えば、看護学部棟の講義室を使っていない時間帯は席数をかなり絞った上で開放して頂けると、今後自習室として利用できる学生が増えるのではないかと考えました。
- ・通学に時間がかかる人のために、メディア授業を学校でも受けられるような環境を整える。
- ・時間を空ける。
- ・学内のWiFi環境を充実させる。

(その他、上の設問以外でメディア授業について思っていることを教えてください。)

- ・コロナ禍で急遽オンラインで実習を実施する事になった時に、先生方が様々な工夫を凝らして行って下さったのはありがたかったです。しかし、今回オンラインでの実習を経験者、患者さんと実際に関わるか否かで学びの内容は大きく変わると実感しました。一部代替で行うことは

方法としてありだとは思いますが、全てをオンラインで行うのは実践能力の不足に繋がる可能性もあると感じます。後輩たちが学び多い大学生活を送れるように、よろしくお願い致します。

- ・先日久しぶりに対面での授業を受けて、正直こちらの方が楽しくかつ理解も深まると感じました。これまでみんなで安心して講義を受けられていたことが、いかにありがたいことかを感じかされました！
- ・メディア授業だと、どうしても課題やスケジュールに関する連絡事項を学生側が見落とししたり、勘違いしたりすることがある。moodleの掲示やメール連絡だけで進めていくのではなく、最低1回は教員と受講学生がWeb会議で対面して、先生に直接質問できる機会があると安心。
- ・グループワークが非常にやりにくかった。実習は、患者さんと関わらないため看護の力をつけられているか不安が残った。
- ・ムードルのどこに資料があるのか、いつまでに何をすればいいのか、わかりづらいことがある。
- ・テキストのみだと情報量が限られ理解が不十分になるので、音声での補足説明文がある方が対面式の授業に近づけると思います。

中村先生：メディアの授業は進んでいきながら、いろいろと整えているところです。対面の授業は一度に教室がないため2学年はできない。対面授業がどれくらい組めるか色々と考えてやっているところです。

2年生の学生：家が遠く、大学で双方向のメディア授業を受けたいとき、図書館が9時～しか開いていないため、1時限の授業が初めから受けられない。リフレッシュルームはWifi環境が良くない。繋がらない。

中村先生：Wifi通信環境を整えていきたい。通信環境の悪い人の対応を考えていきます。

2年生の学生：対面授業の開始前に頭づくりをオンラインでオリエンテーションを双方向で実施してほしい。その方が色々と準備ができてスムーズに進められる。

## テーマ：②「令和2年度におけるメディア授業のグッドプラクティスについて」

○2年生から

○受講生に対する対応として、例に示したような事柄があれば記述ください。

例) ①受講生が自発的に進める項目（予習復習など）の具体的な提示や学修進捗状況の管理

例) ②受講生の不安を払拭する具体的な仕組み

①受講者が自発的に進める項目（予習復習）の具体的な提示や学習進捗状況の管理

【予習復習・小テスト・授業資料・授業内容・時間配分】

・リアルタイムの同時双方向型の授業では、録画をしてMoodleで視聴可能にしたことで復習がしやすかった。繰り返し見れる。

- ・オンデマンドの授業後に小テストがあった。（先生が重要だと感じているポイントがとても分かりやすかった。）
- ・授業資料がイラストや写真、グラフなど簡潔にまとまっていて分かりやすかった。
- ・講義の内容の中で重要な点をわかりやすく提示してもらえた。
- ・授業資料が穴埋めになってて集中しやすく、大事な部分がわかりやすい。適度に生徒を気にかけてくれる姿勢がいい。
- ・受講者のやる気を引き出すような仕組み（都度意見を求めるなど）があった。
- ・レスポンスシートのコメント欄をきちんと毎回読んでくださり、それに対する返答があったり、要望を反映させた授業内容になっていた。
- ・セミナーがあって理解が進んだ。
- ・ズームの時間制限ありのブレイクアウトルームを活用し、授業時間内にグループワークをすることができた。
- ・授業時間が適切で、授業内にワークの時間があるため、自分のペースで取り組みやすい。
- ・グループごとに自由に練習できるところ。

#### 【具体的な科目名を挙げると】

- ・看護基本技術はプレゼン発表もオンライン完結（講義資料を作成する方法と同様、音声を入れてプレゼン動画を作成）で、効率的で学習効果としても対面講義と遜色なかったと思う。
- ・病態学実習Ⅰは、対面講義では標本を見る順番について、班によって違いがあったとのことだが、動画になったことで、全ての生徒が理解に効果的な順番で標本観察を行えるとのこと、オンデマンド講義の良さを活用した講義内容になっていたと思う。
- ・動画がなしでも分かるようなプリントが良かった。（代謝栄養学、薬理学、小児看護学概論）

#### ②受講生の不安を払拭する具体的な仕組み

- ・ムードルの視聴状況が上手く保存されない場合が多くあって、そのパーセンテージで出席確認としない科目は不安な気持ちが少なかった。

#### ○授業内容に関することについて、例に示したような事柄があれば記述ください。

例) ①対面ではなくメディアで授業を進める際の具体的な工夫（方法・構成・時間配分等）

例) ②教員と学生、学生同士のコミュニケーション（質疑応答やディスカッション）に関する工夫

#### ①対面ではなくメディアで授業を進める際の具体的な工夫（方法・構成・時間配分等）

- ・同時双方向講義でも、録画した内容をアップしていただけるのは復習に役立ってありがたい。
- ・再生スピードを変えられる。（聞きやすい速度で聞ける）
- ・本来の授業と同じ長さの授業時間だった。

#### ②教員と学生、学生同士のコミュニケーション（質疑応答やディスカッション）に関する工夫



- ・質問をムードルでさせて頂くと回答を頂けて学びが深まった。
- ・授業の後に質問がないか、時間をとった。
- ・家庭訪問事例セミナー（地域看護学概論）での双方向ディスカッションで先生からのフィードバックをもらえた。
- ・teamsで会議ができたのは良かった。（IPE、地域看護学概論、看護基盤実習など）
- ・グループワークに教員を入れる。（IPE、地域看護学概論）

#### 【その他メディア授業に関する要望】

- ・1.5倍速くらいまでできるようにして欲しい。（集中して授業に取り組める。）（精神看護学概論）
- ・moodleでは提出期限が設定されてないとタイムラインにのらず見逃しやすいため、改善してほしい。
- ・メールで提出物を添付する方法は提出済みか確認しにくいので、moodleかTeamsにしてほしい。
- ・同時双方向で当てるのはいいと思うが、通信環境問題があるとずっとヒヤヒヤしている。

○アウトプット（学修成果物）に関する事で例に示したような事柄があれば記述ください。

例）提出物（課題・レポート等）、小テストの内容、出題方法、期限等に関する工夫

- ・レポートをターム末の最後だけに設定しており、課題レポートが分散していなかった為、授業内容全ての復習を集中して行えた。
- ・事前課題の提出により、講義内容の理解が深まった。
- ・小テストの内容も簡潔型でわかりやすかった。
- ・授業ごとに毎回レポートがあると各授業の負担が重くなるので、もっと小テストがあったらよいと思う。
- ・看護基本技術のプレゼン資料作成と共有、そのプレゼンを学生が閲覧することで相互学習を行う仕組みになっていた。
- ・代謝栄養学、薬理学、形態機能学実習、病態学実習、地域看護学概論など、提出物に対する評価のフィードバックがもらえると自分の意見はどのように評価されるのか、どこが良くてどこが悪かったのかがわかり、次回より良い課題の提出につながるのではないかと思う。
- ・提出期限がまちまちであると困る。
- ・期限が短いと、パソコンの調子が悪くて提出まで時間がなく困ることがある。
- ・期限があるものはダッシュボードに出して欲しい。（色々ありすぎて追いつかない。）
- ・テスト期間に提出物の期限を設定されるのは負担だった。（精神看護学概論の最後の課題）
- ・病態学実習での手書きレポートは時間がかかり、他の授業や課題に影響した。

○その他、上の項目以外でメディア授業ならではの工夫があった場合は記述ください。

例）学生の受講環境に対する配慮など

#### 【学生に対する配慮、メディア授業の工夫】

- ・学生の受講環境を配慮して課題やレスポンスペーパーの期日に余裕を持たせていた。(Moodleが止まることもあったので、このような対応は有り難かった。)
- ・インターネット環境が悪い場合も考慮して録画をしてくださっていた。
- ・ビデオを何度も視聴できるため復習しやすかった。
- ・病態学実習Ⅰの標本が対面のときより見やすかった。
- ・双方向の講義で動画を公開してもらえた。(地域看護学概論、母性看護学概論)

#### 【その他メディア授業に関する意見・要望】

- ・対面やオンラインが混在していると移動時間などで時間がかかり、結局一日中パソコンと向き合うことになるので期限は当日じゃない方が助かる。
- ・ムードルの視聴記録が、見たのに記録されないことが多すぎる。(真面目にやっているのに「受講する意思がないのか」と言うメールが来た。)
- ・Moodleの視聴記録で成績をつけることはやめて欲しい。
- ・授業開始時間が時間割通りよりも前日くらいにアップしてもらえたらアクセス集中をより防げるし、学生の負担にならないと思う。
- ・もっと小テストがあると復習しやすい。
- ・オンラインでできる授業は今後もオンラインでやってほしい。

#### ○4年生から

##### 【発達障害看護学】

- ・実習等の他の科目とのかぶりを考慮して、レスポンスシートの提出を授業後2週間と、余裕を持って設けてくれた。ありがたかった。メディアの方が質問がしやすい。

##### 【老人看護実践論】

- ・学生のコメントシートに対して、先生からの返信をつけてくれたため、学びが深まった。

##### 【成人・老人コア実習】

- ・実践動画を繰り返し見ることができてとてもよかった。

##### 【統合実習・訪問看護学】

- ・学生のコメントシートに対して、先生からの返信をつけてくれたため、自己評価しやすかった。

##### 【看護計画】

- ・フィードバックがすぐほしい。双方向で実施してほしい。

##### 【メディア授業の利点】

本来ならば、西千葉の授業は西千葉に行かないと履修できないが、メディア授業は1週間以内

に見ればOKとなっていた為、土曜日、日曜日にまとめて見ている。

医療政策入門の授業のOneNoteでの進め方がリズムカルでとてもよかった。

中村先生：目的や利点など、ありがとうございました。またテストをしたいなど前向きなこともわかりました。全体のバランスをとる必要、調整可能な点があることがわかりました。

北池先生：これから学部授業の開講方法等調整をして、考えていきたいと思います。

諏訪先生：メディア授業、対面授業等、色々と体験して、モチベーションを維持して頑張っている学生さんの苦勞がわかりました。先生方の取組もわかりましたので取り入れて授業について改善していきたいと思います。

宮崎先生：授業の資料等ぎりぎりアップしてごめんなさい。動画、パワポ、レジメ等沢山の資料を載せていて学生さんが印刷しなくてはいけないことが気になっていたのも意見が聞けて良かったです。これからは早めにアップするようにします。

石橋先生：今日の意見は教務委員会、教員全員で共有するようにします。学習環境の改善を進めていきます。プリンターの問題、亥鼻、西千葉のキャンパスの格差があることがわかりました。授業の資料は早くにあげると学生さんが負担になると思っていたので、具体的に聞けて良かったです。これからは前日くらいまでにアップするようにします。

斉藤先生：基本技術では頭づくりを動画で行い、前半は演習がなかったが後半の演習は中だるみしないで集中ができています。来年度はタイトに進めていこうと思います。

徳久学長：できる限り学部の懇談会に出席している。学部間で色々と違いがあるが、看護学部は学生さんからの文句がなくよくできている。全員留学のために大学としてオンライン授業を1年半前から準備してきたが、同時双方向のメディア授業はこれからのコロナ後も必要である。そのため、学内でローカル5Gを入れようとしていた。メディア授業だと今まではできなかったが、他の授業と比べることができるので教員の学びも必要になる。毎年同じものを使うのはダメ。魅力ある講義のために教員のFDを積極的にやってほしい。

中村先生：課題の提出についてはムードルに1本化する意見や、ムードルの履歴問題、提出にゆとりを持たせるなど、こちらでできることを対応していきます。脅かすことがないようにより良いものをいう感じです。本日はありがとうございました。